

座談会

農業で人が雇えるか？

若き次世代リーダーたちが語る
務める立場の本音と夢

聞き手／「農業経営者」編集長 昆吉則

面積的にでも事業的にでも、経営規模を広げようとする場合、雇用はその成否に直結する重要な要素だと言える。そして多くの場合、経営を成功させる人材とはただの労働力ではなく、ヒューマンキャピタルと表現される人的資源を指す。農業は職場として、そうした人材にそこで働きたいと思わせるに足る場所を提供しているのか。経営者ではなく、農業事業体の中で働く被雇用者の率直な話を聞くことでその実情を探る。

昆吉則　今回のテーマは、農業が人を雇用できるかです。これは何も給料を支払えるかどうかという問題だけではなく、そこで働きたいと思うに足る場を用意できているのか、ということまでを含みます。このテーマを考えるときに、経営者に話を聞くよりも、そこで働く次世代の経営者候補の皆さんに話を聞く方が、より実情に迫れると考えたわけです。

世間では後継者がいないと騒がれている中で、なぜ農業を職業として選んだのか。また、現状の職場環境をどう感じているのか。どこに目標を置き、目指すものは何なのか。これらの点について、忌憚なく聞かせてもらえればと思います。

矢野智　私の場合は、元々、サラリーマンをしていたんですが、農業をやってみたいという気持ちが強かったので、池袋サンシャインで毎年開催される「新・農業人フェア」の求人に応募して就農しました。ところが最初に就職した先の経営者が、事故で負ったケガがもとで引退してしまったため、その人と付き合いの深かった、㈲あぐり信州に声をかけてもらいお世話になることになったんです。

江口博幸　私の場合は、実家が農業をやっているということもありますが、アルバイトでやっていた仕事が楽しくて居ついちゃったという感覚ですね。その流れの先に、新たにジャガイモを作付けしたり、田の面積を拡大したりと毎年新しい展開があるんです。うちの社長の染谷さんは、スタッフ同士の話し合いを大切にしていて、これをやれと命令するタイプではないんです。これに慣れてくると、逆に社長に今回はこうだったから次はもう少しこうしてもいいですかと、提案までしちゃう。大抵はOKになるので、自分で回しているんじゃないかと錯覚して、知らず知らず責任感が芽生えてくるんです

よ。

昆　染谷さんらしいね。やる気にさせるのがうまい。しかし、次の経営者、あるいは片腕が育つ上で理想的な環境と言えますね。前野さんは、実家は農家ですよね。

前野千春　そうですね。それに農大卒です。今働く㈱鹿島の社員になったきっかけは、茨城県の鹿島干拓の農地を一手に取りまとめていた人がいて、その人のもとで乾田直播栽培を勉強したいと思ったからです。今から10年ほど前は、そこしかないと聞いたものですから。その縁で、そのリーダーが作った今の法人に勤めることになりました。㈱鹿島は、地主が供出する農地を集積し運営する、いわゆる集落営農組織。地主の中から代表者が選出されます。その元で割り当てられた10haほどの農地を管理しています。経営者ではないのですが、ある程度自分の希望するものが作れて、販路も開拓できます。希望とやる気があれば「どうぞやってください」という感じなので、やりがいはありますね。

昆　ある面、勤めるというのは給料をもらうだけではなく、チャンスを与えられることだと思いますが、そういった意味では、皆さんたくさんのチャンスを与えられていますよね。

前野　与えられているというか、最後にお鉢が回ってきているのかもしれないですけど（笑）。自分は地域のどの集まりに行っても、一番年下なので、最終的に上の人がやらなければ自分がやるしかないんですよ。

昆　江口さんは、現在、柏染谷農場で実質的にリーダーとしての役割を果たしていますね。それに加え、夏場は実家の農業も手伝っている。将来についてはどのように考えていますか。

江口　最近、どういう形で自分の将来を軟着陸させようかと真剣に悩んでいます。実家の父親たちも年をとって、その責任が大きくなっていきます。が、染谷農場は今、180haの経営面積になり、200haも視野に入っている。仕事がどんどんおもしろくなっているんです。圃場を仕切れる人間がいなきゃ回らなくなるところまできているので、自分がそういう位置にならないといけないという責任感もある。その両面から自分の身の振り方をどうしようかと考えています。

昆　矢野さんは経理を任されているそうですね。それは信頼されている証拠だと思いますが、やり始めたのはいつからですか。

矢野　1年目からやっていました。その前に勤めていたところでも数字の入力はしていたので、任されたんです。4年やってようやく少しわかってきた感じですね（笑）。

昆　社長の篠原さんは、事業を世襲させず、有能な人材に譲るために法人化したと言っています。あなたは最終的にどういうゴールを目指しているんですか。

矢野　いずれ働けなくなるのは社長だけの話ではなく、私も同じ。定年

農業は植物と同じで下から積み上げていく仕事（矢野氏）



矢野 智（30歳）

出　　身：愛知県
所　　属：㈲あぐり信州
雇用形態：社員
経営面積：11ha（ハクサイ8ha、キャベツ3ha、他にナガイモなど）

備　　考：名城大学農学部卒。脱サラし、「新・農業人フェア」を通じて、1999年より、アルバイトで長野県の野菜農家へ。その後、㈲あぐり信州に移り、経理から栽培管理までを担当。既婚、子供3人。



江口 博幸（38歳）

出　　身：千葉県
所　　属：柏染谷農場
雇用形態：日給月給制
経営面積：180ha（水稲60ha、小麦、ジャガイモなど120ha）

備　　考：実家はコメ農家で経営面積は7ha。県の農業大学卒業後、アルバイトを経て現職。実家と染谷農場を季節で兼業する。

がないとはいえ、いずれそのときは間違いなく来ます。しかし、そこに可能性があると思うんです。生産だけで完結せず、マーケティングや販売に力を入れて経営を成立させ、確実に収益を上げる。そうすれば、その事業体は、他の企業に負けない魅力を持つことになり、それがまた人を集めます。そこで有能な人材がたくさん集まれば、その事業体はさらに発展する。その人と人をつなぐ1人になれれば光栄です。まだ考え始めたばかりなので、情報ばかりが入ってきて頭が整理しきれていない状態ですが。

昆　前野さんは、将来をどのように考えていますか。

前野　真剣に考えているつもりでも、時間を棒に振っている部分もありますね。漠然とですが、将来的には㈱鹿島単独ではなく、回りの地区を巻き込んだ構想を考えています。周りには後継者と呼ばれる人が20～30haに1人いますが、父親たちがやめれば後を継ぐのかというと、大半が消極的。年代もほとんど自分と変わらない人が多いので、みんなで考えてそれらの人を束ねるムーブメントを作っていきたい。決断しなければならないときはすぐそこに来ているので、具体的な戦略を決め、生産だけではなく、販売方法や販路などを確立していきたいと思います。

知縁を広げる次世代リーダーたちの輪

昆　経営者同士ではなく、あなたたちのように雇われている側の人たちが、同じ立場の人たちと横のつながりで知り合うということはあるんですか。

矢野　他県の人と出会うことは、まずないですね。江口さんはありますか？

江口　柏染谷農場は、カルビーポテト㈱とジャガイモの契約栽培をしているのですが、その関係の集まりに社長が出席できないとき代わりに行って、知り合った人というのはいます。それと、今、千葉県を中心にして比較的若い人たちのネットワークができつつあるんです。まだ小さくて、水稲に限定されてしまいますけれども。

昆　それはどういう経緯で広がったんですか。

前野　確か、元々は普及センターからスタートしたんですよね。

矢野　前野さんもそのグループに入っているんですか。

前野　ええ。

江口　もともと、私たちの仲間数人と普及所の普及員の人とで作ったものだったんですが、その人が前野さんの近くの千葉県印旛郡に移動になったことがきっかけで前野さんの仲間と僕らの間を取り持ってくれたんです。その後、県の経営者会議や、全国稲作経営者会議で知り合った若手を中心に呼び入れてできたのが今のネットワークです。年代は40半ばの人から35歳くらいまでで、ほとんどは農家の純然たる後継者たちです。千葉っていうのは系統に属さない人たちが稲作会議などに顔を出しているので、やろうとしている方向性が一緒のことが多いんですよ。

昆　江口さん、染谷さんのところには常にいろんな話が飛び込んでくるでしょう。さきほど話にあったカルビーポテトとのジャガイモの契約栽培の話だったり、スガノ農機㈱がいろいろな機械を貸してくれるという話だったり。実は、なにかをやろうとしている人のところには人が集まってくるんですよ。何かをやろうというオーナーがいたり、人がいることによって、大きな情報だとか励ましや信頼みたいなものが作られていく。これからは、やっぱり若いあなたたちがそれを主導していかなければいけないんじゃないでしょうか。

江口　そうですね。学生のころ、地縁、結縁、と知識の縁である知縁。

自分が農業をやる意味を理解したとき誇りが生まれる（江口氏）



前野 千春（33歳）

出　　身：埼玉県
所　　属：（農）鹿島
雇用形態：社員
耕作面積：20ha（（農）鹿島、水稲）、15ha（角来工区他、大豆5ha、枝豆1ha、トウモロコシ0.5ha、チューリップ5ha他）
備　　考：就農から10年、（農）鹿島には6年間勤務する。実家は農家で家業を継ぐかは検討中。

これがどれだけあるかで、人間の幅が変わると聞いたんです。これからも刺激し合える仲間をたくさん持ちたいですね。

それぞれの誇り

昆　この職業は、家庭を持ってからもその生活を支えてくれるものだと思いますか。もっと給料が欲しいとかもあるでしょう。

矢野　やっぱりありますよ。実家が愛知なんですが、正月に妻と一緒に帰ったときなんですが……。

前野　結婚してるんですか？

矢野　してますよ。子供も3人いて、3番目が1歳ちょっとなんです。住むところも縁があって、５０００円で借りられています。一戸建ての家です。


結婚・家族に話題が移ると会話が一段とはずんだ

江口　それにしても、奥さんはすごいですね。夢を追いかける夫に付いてくるなんて。

昆　それで、もう少しいいかっこうをしたいと思うんですか。

矢野　先ほどの話ですが、正月に帰郷したとき、地元でトヨタ系列の企業に勤めている友人に会ったんです。私と比べて収入は天と地ほど違っていてとんでもなくもらっているんですよ。別の友人の公認会計士もやっぱり稼いでいる。彼らに「自分は農業がやりたくて勝手に出て行ったからいいけど、子供たちをちゃんと育てられるほど収入は安定しているのか」と言われて少し悔しかったんです。２～３年くらい前まではその悔しさが抜けなかった。でも、自分は愛知で生まれて長野という自然の豊かなところに住んで、好きな仕事をして稼いでいる。その友人の考え方と僕の生き方のどちらかが正しいということではなく、自分の選んだ仕事で糧を得ている自分に誇りを持とうと決めたんです。ただし、これは自分ひとりで達観できたことではなく、妻と話している中で、妻が私に気付かせてくれたことなんです。

前野　私は自分で自分を慰めるしかないですからね。「俺はがんばんなくちゃいけねぇんだな」って。

江口　落ち込んで家に帰って、そのまま朝になって出かけるというのは辛いんだよね。

昆　今、矢野さんの話の中で、誇りという言葉が出ましたが、自分の職業に対する誇りを皆さんはどうやって築いたんですか。

江口　昔、あるきっかけで知り合った女性がスチュワーデスだったんです。30歳を超えると１０００万円近くもらえるそうで、当時自分はアルバイトで２００万しかもらっていなかった。地べたを這いつくばって草をとっているとき、空の上を飛ぶ飛行機を眺めて「住む世界が違う」と思ってけっこう卑屈になったこともありましたね。ただ、今は地面に立って仕事をすることにものすごく誇りを感じるんです。その女の子たちに、野菜の育ち方を教えるとちょっとしたヒーローになった気分でしたし。自分のやっていることの意味を理解したときに、初めて誇りが生まれるんじゃないかと思います。

矢野　やっぱり農業って本当に根っこが生えていて、地面に立つ生き物の形だと思うんです。そういう話はすぐ流行の言葉に置き換えられますが、自分の実感では植物と同じように下から積み上げていく仕事。だからこそやりがいがあるんです。

前野　昆さんの言葉じゃないですけど、これから5年、10年先の経営の夢について考えることができる立場にあるということが一番大きな誇りです。高校のときから、実家にいることが少なく、いろいろな人のところでお世話になって、さまざまな話を聞くことができました。こういうやり方もある、こういう生き方もある、そういうことを感じることができたからここまで続けてこられたと思いますし、続けてこられた自分を誇りたい。

昆　農業はまだまだ未成熟で、産業としての成長を阻む制度や要因があり過ぎます。それでもこれから急激に変わって、5年したら今までとはまるで違う時代になるかもしれません。それからが本当にあなたたちが活躍するときです。そこから逆算して今何をするべきかを考えてみてください。今日はありがとうございました。

（まとめ・花田正博）

10年先の経営の夢を語れる立場にあることがうれしい（前野氏）